

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 全市的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の評価と課題を検証し、改善を図る。
 - (2) 児童生徒の学習状況を把握・分析し、授業改善等の教育指導に役立てる。
- ※本学力調査において、把握できるのは、学習指導要領が育成を目指す資質・能力の一部のみであることに留意すること

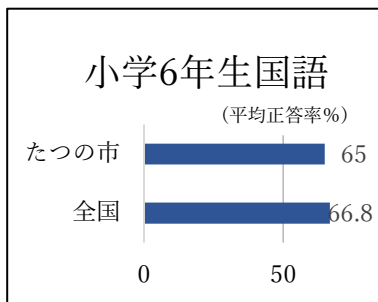
2 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和7年4月17日(木)
- (2) 本市の調査実施校数及び児童生徒数
 - ・小学校6年生：16校 601名
 - ・中学校3年生：5校 606名
- (3) 調査内容
 - ア 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ①児童生徒に対する調査 ②学校に対する調査
- (4) 調査形態

今年度調査から、従来の紙媒体による調査(PBT: Paper Based Testing)に加え、中学校理科においては、新たに1人1台端末を活用した調査(CBT: Computer Based Testing)を導入。(児童生徒質問調査は令和6年度からCBTを導入)

3 調査結果と分析

(1) 小学校国語(全14問)



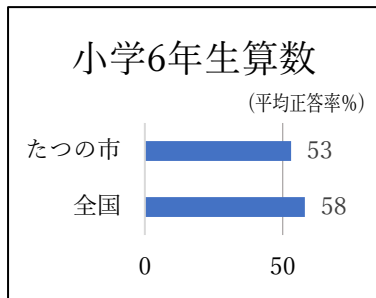
<学習の成果が見られた出題内容>

- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使うことができる。

<課題の見られた出題内容>

- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・文章と図を結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができる。
- ・時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。

(2) 小学校算数 (全 14 問)



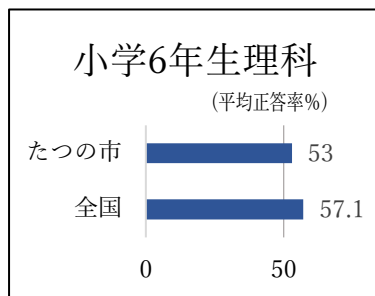
<学習の成果が見られた出題内容>

- ・異分母の分数の加法の計算ができる。
- ・はかりの目盛りを読むことができる。
- ・角の大きさについて理解している。

<課題が見られた出題内容>

- ・数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。
- ・小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる。
- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。

(3) 小学校理科 (全 17 問)



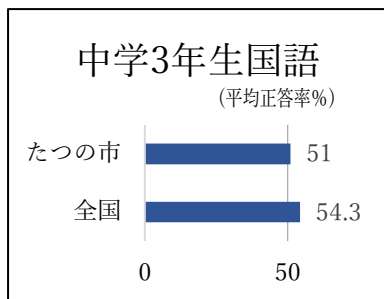
<学習の成果が見られた出題内容>

- ・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が身に付いている。
- ・乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。
- ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは、巻き数によって変わることの知識が身に付いている。

<課題が見られた出題内容>

- ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる。
- ・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。
- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる。

(4) 中学校国語 (全 14 問)



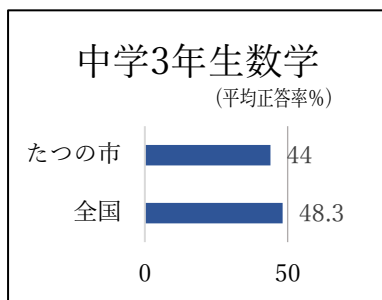
<学習の成果が見られた出題内容>

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。
- ・書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができる。
- ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

<課題が見られた出題内容>

- ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。

(5) 中学校数学 (全 15 問)



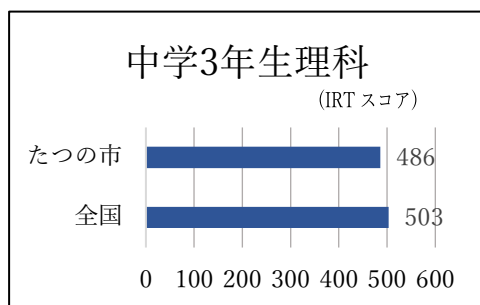
<学習の成果が見られた出題内容>

- ・数量を文字を用いた式で表すことができる。
- ・相対度数の意味を理解している。
- ・多角形の外角の意味を理解している。

<課題の見られた出題内容>

- ・素数の意味を理解している。
- ・必ず起こる事柄の確率について理解している。
- ・統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる。

(6) 中学校理科 (全 16 問)



<学習の成果が見られた出題内容>

- ・仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して仮説が正しい場合の結果を予想できる。
- ・ガス警報器の設備場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と密度に関する知識及び技能を活用して、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できる。
- ・スケッチに関する知識及び技能が身に付いている。

※ IRT(Item Response Theory：項目反応理論)スコア 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500** を基準にした得点で表すもの。

<課題の見られた出題内容>

- ・実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる。
- ・身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる。
- ・元素を記号であらわすことに関する知識及び技能が身に付いている。

(7) 児童生徒質問調査

※数値は肯定的な回答の割合 (%)

分類	質問内容	小学校		中学校	
		たつの市	国	たつの市	国
挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感・幸福感等	自分には良いところがあると思う。	86.5	86.9	84.3	86.2
	将来の夢や目標を持っている。	84.9	83.1	63.1	67.5
	人が困っているときは、進んで助けている。	94.6	93.7	91.9	90.9
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	97.3	97.2	96.7	95.9
	人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.2	96.4	97.4	96.6
	友達関係に満足している。	93.8	91.7	93.7	91.4
	普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある。	93.5	93.0	90.7	91.6
地域や社会に関わる活動の状況等	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。	81.3	80.6	45.7	44.2
	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。	43.9	39.4	30.3	29.5
	地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う。	85.4	81.3	80.6	75.3
主体的・対話的で深い学びの視点	【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に して協力しながら課題解決に取り組んでいる。	92.2	91.9	90.9	91.9
ICTを活用した学習状況	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用した。	70.0	46.7	78.8	53.2
	インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができる。	89.9	89.8	92.5	91.5

分類：「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」質問調査【速報版】より

- ・児童生徒質問調査のうち、97%以上の児童生徒が「人の役に立つ人間になりたい」という思いがあり、日々の生活の中で、自己有用感や幸福感が育まれていると思われる。また、9割以上の児童生徒が、「困っている人を進んで助ける」「いじめはいけない」「友達関係に満足している」と回答していることから、良好な人間関係の中、道徳的な判断力や心情等が育まれていることがわかる。

- ・地域や社会に関わる活動の状況から、自然体験や地域の大人との交流体験を通じ、地域への愛着が育まれ、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という思いが育っていることが分かる。
- ・学習状況については、「ICT 機器を授業でほぼ毎日活用した」と回答した割合が、小学校約 7 割、中学校約 8 割と、国や県より非常に高くなっている。

4 たつの市教育委員会の今後の取組

(1) 成果・課題の分析・把握を効果的な学習指導の充実に生かす取組

- ・各校が、成果と課題について共通の分析ができるように、統一した分析データを提供し、研修等で活用する。
- ・各校の授業改善に向けた取組を各中学校区で共有し、効果的な指導体制や指導方法について協議するなど、小中連携を踏まえた効果的な授業改善の推進につなげる。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組

- ・1人1台端末や ICT 機器の活用が広がり、文字入力や情報収集など、基本的な操作能力が身に付いてきている。今後は、調べた情報を整理・分析し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたり、画像や動画等を活用して自分のペースで学習を進めたりするなど、学習内容を深める授業改善に取り組む。

(3) 「ことばの力」を高めるための取組

- ・令和7年度たつの市ことばの力育成事業モデル校を中心に、「批判的読み(文章の内容を理解するだけでなく、主体的に情報に向き合い、有効的に活用できる力を育成するための読み)」を取り入れた授業づくりを推進する。また、読書活動や新聞づくり等を推進し、活字に触れる機会を増やす。

(4) 豊かな人間性・人間関係の構築に向けた取組

- ・豊かな人間関係は、学力向上の基礎である。現在、各校において、教育活動全体で道徳教育の充実が図られ、児童生徒は、良好な人間関係の下、自然や地域の人々との交流を深めながら、豊かな人間性を育んでいる。それらの力を基盤にして、主体的に学習に取り組む態度を高めていけるようにする。